

2015年度日露青年交流事業 日本拳法選手団ロシア派遣報告書

経緯

2013年4月に行われた日露首脳会談（於：モスクワ）の際、安倍総理とプーチン大統領との間で、2014年を「日露武道交流年」とすることで合意し、共同声明で言及。

両首脳は武道という切り口での日露両国民の交流と、相互理解促進を目的とする事業を公募。2014年3月、「全・日本拳法総合選手権大会」にロシア古武術連盟日本拳法グループ10名程度の招聘を外務省に提案して採用され、日露青年交流センター・一般財団法人日本拳法全国連盟の共催事業として実施された。

引き続き2015年3月、モスクワで開催される「2015年日本拳法ロシア国際大会」に日本選手団10名程度派遣。プログラムを外務省に提案し、日露青年交流センター・一般財団法人日本拳法全国連盟の共催事業として採用され実施された。

ロシア国際大会 事業報告

11月18日（水） 日本選手団結団式（霞が関・中国料理 頤和園）

当日、在関東選手3名は直接会場へ、在関東以外の選手・役員は前泊ホテル（上野）にチェックイン後、会場に18：00に集合。渡邊事務局長の激励の挨拶と乾杯で結団式が始まり、次々と出される美味しい四川料理を賞味しながら選手達が自己紹介と抱負を述べ、歓談に時を過ごす中、日露青年交流センターの大久保女史よりロシアの予備知識とロシア語を教授いただき、未知の国ロシアに思いを馳せながら20：00に解散。

11月19日（木） 東京／成田発（SU265）13:10。モスクワ／シェレメチェヴォ着 17:35。

12時間の長旅であったが、機内サービスも行き届いており、大した疲れもなくシェレメチェヴォ空港に到着。前日の降雪のなごりある風景を見て、ロシアに来たことを実感する。

空港では一足先に到着していた土橋国際部員と現地の代表者アレクセイ会長に出迎えられ、選手たちには小型バスが用意されていた。

しかしロシア名物といわれる大渋滞に遭遇し、モスクワの北のはずれから南に位置するウズコエホテルまで3時間半を要し、この移動で疲れ果てた一行はホ

テルで軽い食事をとってすぐに眠りに就いた。

11月20日（金） モスクワ市内観光（ガイドはモスクワ市立大学日本語学科の学生）。

この日はモスクワ市立大学日本語学科の学生達の案内で、モスクワ中心部の観光となった。赤の広場とその周辺を観光した後、伝統のあるグム百貨店で昼食。その後、地下鉄を利用してアルバート通りを散策した。

夕刻はロシア古武術連盟の本部道場で約30人の有志を対象に2時間にわたって日本拳法の講習会を開催。熱気のこもった練習で少しでも正統の日本拳法をロシアに紹介できた貴重な機会であった。

11月21日（土） ロシア国際大会（初日）ソトルズェストバ体育館。

本日はロシア国際大会の当日である。大勢の選手や観客が集まり、盛大に行われた。今回の訪問の目的は、あくまで日本とロシアの青年同士の交流であるが、この大会は双方にとって大きな成果であった。

昨年は武道交流年であり、ロシアの選手団を迎えることで始まり、今回の交流はその延長で、ロシアにとって日本選手が参加する初めての国際大会であった。

大会は日本選手が10人参加して優勝4名、準優勝2名、3位2名、4位1名、ベスト8が1名となる有意義な結果となった。特に女子は優勝から3位を独占する活躍をみせた。大会後はホテルの近くのレストランで晩餐会が開催され、夜遅くまでお互いの健闘を称え合った。

11月22日（日） ロシア国際大会（2日目）ソトルズェストバ体育館。

本日はロシアで初めて雪が降った。大会会場の近くに市場があり、寄ってみることにした。その後、近くの大きなデパートに行き、1階がスーパーマーケットだったので、全員そこでたくさんのお土産を買った。

その後会場に行き、大会2日目の国内大会を観戦し、午後からは一昨日に続いてモスクワ観光に出向き、ロシア正教の大聖堂を見学する。内部はロシア芸術を集約したような豪華で厳かな、日本では見られない光景で一同感嘆した。そしてモスクワ中心部のレストランでロシアの伝統料理を楽しんだ。

11月23日（月） スポーツ専門学校視察。モスクワ市立大学討論会。

9：00に迎えのバスに乗り、スポーツ専門学校へ見学に行く。ここは17才からの若者を対象にプロフェッショナルを養成したり、オリンピックを目指すアスリートをつくりあげる、ロシアらしいといえればロシアらしい施設であっ

た。その後、モスクワ市立大学の学生との日本語討論会に臨んだ。討論会では時間の都合上、日本から提案した「貴方の夢は？」のテーマでロシア側3人、日本側3人で意見を交換した。若者同士の活発な意見交換の場となった。夕食はウクライナ伝統料理店で最後の夜を楽しんだ。

11月24日（火） モスクワ／シェレメチェヴォ発（SU260）20:00。

本日は帰国日である。渋滞を予測して昼前にホテルを出発する。途中レストラン（祝勝会開催場所）で昼食（慣れ親しんだボルシチュウ・ピロシキ）をとり、最後のロシア料理を楽しんだ。

11月25日（水） 東京／成田着 11：40。全員無事に成田空港に到着。

初めてのロシア訪問で感じたことは、ロシアでは日本に対する評価が非常に高いということである。大会会場ではもちろんのこと、町でも日本人というだけでとても良い印象を持ってくれた。

こんなエピソードもあった。体育館近くの市場を見物していると、初老の男性が「中国ではこんな新鮮な果物は売っていないだろう」と声をかけてきた。私たちが「いや私たちは日本人だ」と答えると、相手の表情が一変し「日本人かぁ、日本には桜があって素敵だなぁ」と言ってきたので、「ロシアには桜がないのか？」と聞くと「ロシアには桜はないよ。その代り美人の女性がいっぱいいるぞ」などと会話を楽しんだ。

日本はロシアではブランドになっている。それは今までの歴史を築いてきた日本人たちの努力の賜物だと思う。これからも日本がロシア国民に愛されるためにも、私たちはその人なりの日本人らしさを身につけて、ロシアに親しまれる存在でありたいと思う。そして私たちもロシアをもっと理解したいと考える。

最後にこの事業を採用していただいた外務省並びに日露青年交流センターに対し、心より感謝の意を表し、これからも武道を通して両国の親善に努めていきたいと思うのである。

一般財団法人 日本拳法全国連盟
国際部部長 岩尾 勤